

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和5年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	核家族化等により、生活の困りごと(外出や雪下ろし等)に対する支援を必要とする高齢者が増加している。 アンケート調査では、地域で安心して暮らすために必要なことの第1位は「公共交通の充実」となるなど、移動支援を必要とする高齢者が増加している。	外出困難者の移動支援	支所地域において、一般の交通機関の利用が困難な高齢者に対して、通院や買い物、在宅福祉サービスを提供する場所等への送迎を行う。 外出支援事業の会員登録者数と延べ利用回数 R3 400人 8,000回 R4 400人 8,000回 R5 400人 8,000回	外出支援事業の会員登録者数と延べ利用回数 R3 359人 7,627回 R4 338人 8,491回 R5 348人 9,069回	◎	外出支援事業は、公共交通の利用が困難な高齢者にとってニーズが高い事業であり、利用回数は増加している。今後人口減少がすすむ中で、この事業を継続していくためには、運転手の確保が課題であると考えている。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が要介護状態になるのを未然に防ぎ、いつまでも元気に暮らすために、介護予防の取り組みをより一層推進する必要がある。	高齢者健康教室等の開催による介護予防の推進	介護予防を目的とした健康体操や健康づくりの話などを行う高齢者健康教室(ひざ腰元気教室)等を開催する。 高齢者健康教室等の延べ参加者数 R3 4,800人 R4 5,000人 R5 5,100人	高齢者健康教室等の延べ参加者数 R3 3,571人 R4 5,587人 R5 6,207人	◎	R3年度は新型コロナの影響により高齢者健康教室を計画どおり開催できなかったが、R4年度以降は計画どおり開催できたため、参加者数の増加につながった。引き続き、高齢者健康教室等を開催し、介護予防の推進に努める。
②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が必要とする過不足のないサービスを事業者が適切に提供するよう促すことで、介護給付の適正化を図る必要がある。	①認定調査チェック ②ケアプラン点検 ③住宅改修等の点検 ④縦覧点検・医療情報との突合 ⑤介護給付費通知	①外部委託分の書面チェック(全件) ②ケアプランの書面チェック(抽出10件) ③住宅改修の事前チェック(抽出250件) ④国保連への委託による縦覧点検・医療情報突合(全件) ⑤受給者への給付状況の通知(全件)	①全件(325件) ②抽出(8件) ③全件(174件) ④全件 ⑤希望者へ通知(0件・希望者なし)	○	⑤介護給付費通知については、R4年度から希望する方のみへ通知する方法へ見直しを行った。